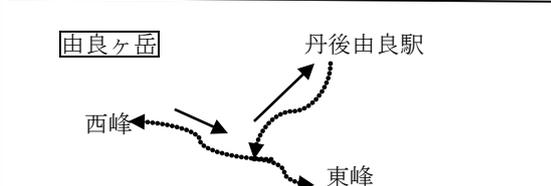
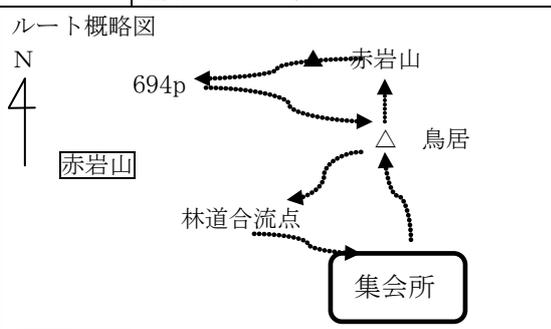


山行報告書

京都田辺山友会

報告者 染矢つや子

山名	1日目赤岩山 2日目由良ヶ岳	山行名	北部交流会
ルート	1日目 集会所～直登コース～鳥居～山頂～694P～鳥居～林道合流点～集会所		
山行日	11月22日(土)～23日(日)	天候	1日目晴れ 2日目曇り
参加者	リーダー：染矢 サブリーダー：中島 運転：佐坂 男性：鈴木・上田(昌) 合計：5名		



コースタイム					
赤岩山		時：分	由良ヶ岳		時：分
西方寺 集会所	着	9:00	J R丹後 由良駅	着	
	発	9:15		発	8:45
赤岩山 展望台(昼)	着	10:30	5合目	着	9:55
	発	11:00		発	10:00
宇野ヶ岳	着	11:50	東峰	着	10:45
	発	12:05		発	10:55
小休止 ポイント	着	12:45	西峰(昼)	着	11:15
	発	12:55		発	11:35
西方寺 集会所	着	14:00	J R丹後 由良駅	着	13:00
	発	14:15		発	13:25

1日目 京田辺を6時30分に出発、沓掛～京都縦貫道 大江ICで降り料金所で道路を聞く。事前に調べた看板が見えず「赤岩山」の表示もありほっとする。集会所で作業する人に許可を得て車を止める。雲ひとつない好天気。田舎の住宅を抜け真っ直ぐ登る。小休止ポイントの看板の所だけが少し展望は開けるくらい。名前が付けられた岩と岩の間を登りきると開けて展望が・・・素晴らしい絶景 貸切状態でのんびりと海を眺める。少し西に行くと「赤岩山」頂上の標柱があった。宇野ヶ岳方向の標識があり時間に余裕があったので行ける所まで行くことにした。雑木が刈り取られ道幅も広く歩き易かった。694Pで引き返す。林道合流点回りで集会所に戻る。温泉で汗を流し西神崎公民館、17時過ぎに着く。北部の人達は宴の準備に追われていた。18時交流会が始まり田原理事長・土田元会長の挨拶。次に各会の紹介に入ったが、南からと田辺がトップに指名され、何を話そうかと頭の中でまとめる余裕もなく6月の「無雪期搬出訓練」参加へのお礼を申し上げた。お料理のお刺身は厚く大きくプリプリ、たくさん戴きました。81名が集いお酒も入り大賑わい。会を越えた語らいは遅くまで続いていた。

2日目 宿泊所で朝食を済ませ各自車に乗り込みJ R丹後由良駅集合。今日はどんよりした天気。班分けが行われ、やましな・左京・田辺の9名。和気藹々とおしゃべりしながら東峰に着くも展望ゼロ。すぐに西峰に、昼休憩している間に宮津湾や栗田湾が見えるだろうと、予想通り少し明るくなり海が見えた。下山はかなり注意した。ドスンと尻餅をつく人もいたが笑いで終わる程度だった。北部の係りの方から「全員揃うまで待って下さい」と声かけがあったが30分待っても最後尾パーティがこないのので下山チェック後解散。帰京の途に。京田辺着16時

ヒヤリハット

なし

北部交流会に参加して (11月22日～23日)

上田 昌宏

登山の交流会が舞鶴市近郊で開催されると聞いて懐かしく思い参加を決めた。1962年春、海上自衛隊舞鶴に入隊し訓練を受けた僅か2年であった。舞鶴は私にとって人間形成の過程で精神論、生涯学習論等汗をかいて知恵を出す生き方を教えられた。

さて今回1日目登山の「赤岩山」669mは北に天橋立望む宮津湾、東に遥か彼方に西舞鶴湾の青葉山、澄み切った青空と青い海、展望の利く素晴らしい山です、登山道は南斜面から北方向に着いており陽当りは申し分なく選択して下った染矢リーダーに感謝している。山頂付近はブッシュが刈り取られ歩き易く南方向の自然林紅葉の色は格別だ。ここらの里山、山林は自然気候厳しく防災災害防止上、人工的改良せず保存したものだ。夕刻前参加者5名たかお温泉に入る(720円)入口はひとつ、中にふたつ、またふたつ露天風呂、内風呂。水質はつるつるすべすべ、湯に浸かると手足伸ばし背伸び、勢いありすぎて水没、残念でした。十分に温もりのども乾く、泡を横目に本日最後のドライブ、労山北部交流会会場へ渋滞に巻き込まれることなく20分で到着。寒い中、表に出迎えの仲間達、駐車場にも仲間待機、心温まる歓迎伝わりありがたい。

いよいよ夕食宴会だ。新鮮な魚介類、地元産野菜、料理長、山の仲間達、歓迎の心ひしひしと伝わってくる。各会の紹介。参加者80余名。明日は由良ヶ岳登山を控えている、早く休みたいものだ。しかし 皆さんよく飲んで食べて凄いパワーだ。



「赤岩山」展望台 天の橋立 宮津湾 栗田湾



「赤岩山」山頂 699m

「由良ヶ岳」は栗田湾南に位置し、JR丹後由良駅より国民宿舎(廃業)横が登山口だ。この山は北斜面が登山道だ。陽当たり悪い、厳冬期 海からの風を受け積雪多いただろう。11月のこの時期、滑る所が多くあり気をぬくところがなかった。ともあれ田辺山友会面々4人(早退1人) 事故なく下山出来た。体験と冒険 充実した山行であった。